

第43回広瀬川創生プラン策定推進協議会 議事録

■ 日 時:令和4年3月14日(月曜日) 10:00~11:30

■ 場 所:オンラインによる開催

■ 出席委員:小祝 慶紀 会長、小田 隆史 会長代理、

岩崎 雄一郎 委員、大庭 克己 委員、鈴木 典宏 委員、須藤 誠元 委員、多田 千佳 委員、手島 慧 委員、豊嶋 純一 委員、西大立目 祥子 委員、深松 努 委員、守 修一 委員、谷田貝 泰子 委員

※高橋 順子 委員はオンライン参加が不可だったため、事務局から資料の事前説明を行い、議事内容につき予め了承を得た。

■ 欠席委員:牧野 弘明 委員

■ 事務局:仙台市建設局百年の杜推進部河川課

■ 内 容:

<次 第>

1. 開 会
2. 挨 拶
3. 議 事

(1) 令和3年度重点事業の評価及び取組事業の報告について

(2) 令和4年度重点事業の設定及び取組事業の更新について

(3) 広瀬川ゴールドサポーターの認定について

(4) 広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について

4. その他

(1) 第40回全国都市緑化仙台フェアについて

5. 閉 会

■ 要 旨:

●令和3年度重点事業の評価及び取組事業の報告について了承された。

●令和4年度重点事業の設定及び取組事業の更新について事務局案が了承された。

●広瀬川ゴールドサポーターの認定(3件)について協議会に意見聴取を行い了承された。

●広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について了承された。

■ 議事詳細：

1. 開会

○司会（河川課 伊藤課長）

ただいまより「第43回広瀬川創生プラン策定推進協議会」を開会する。本日、司会を務める河川課長の伊藤である。

本日は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンラインでの協議会開催となった。また、例年、本協議会は年2回ほど開催しているが、コロナの影響もあり、当年度は1回のみ開催となった。

=配布資料の確認=

2. 挨拶

○司会（河川課 伊藤課長）

はじめに、建設局長の千葉より挨拶申し上げる。

○千葉建設局長

本日は、お忙しい中、ご出席いただき誠に感謝する。

昨年度から引き続き、今年度についても、新型コロナウイルス感染症が猛威を振る状況が続いており、本日もオンラインでの協議会開催となった。

オミクロン株による感染再拡大で感染者数が再び増加する一方で、先月2月には、規模は縮小するものの「仙台・青葉まつり」が3年ぶりに開催されることが決定するなど、徐々にではあるが、コロナ禍以前の生活が戻りつつある様子も見られるようになっている。

さて、本日は議事の中で、「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」をとりあげている。平成31年4月1日の創設から令和4年3月31日で丸3年が経過する「広瀬川魅力創生サポーター認定制度」は、現在13の団体を広瀬川グリーンサポーターとして認定しており、その中の3団体からゴールドサポーターの申請をいただいている。広瀬川ゴールドサポーターの認定にあたっては、協議会から意見をいただくこととなっており、委員の忌憚のないご意見を頂戴したい。

○司会（河川課 伊藤課長）

続いて、人事異動により当年度から新たに委員となられた方々を紹介する。

■宮城県仙台土木事務所 河川部河川砂防第一班 技術主幹（班長）

鈴木 典宏 委員

■株式会社JTB仙台支店 営業第一課

手島 慧 委員

■公益財団法人仙台観光国際協会 副理事長

守 修一 委員

の3名である。

また、牧野委員においては、所用により欠席とのご連絡をいただいている。また、高橋委員については、オンラインでの参加は不可とのことだったため、事務局から資料を用いて事前に説明を行い、議事の内容について予め了承をいただいている。

3. 議事

○司会（河川課 伊藤課長）

本日、出席いただいている委員が、全委員の過半数に達しているため、本会は成立している。以降の議事の進行は、要綱第6条に基づき小祝会長にお願いする。

○小祝会長

まず、会議の公開または非公開について確認したい。非公開となる事案がないので、今回の協議会は公開としてよろしいか。

=一同了承=

次に議事署名は五十音順で鈴木委員にお願いしたいが、よろしいか。

=一同了承=

=鈴木委員了承=

それでは次第に沿って進めさせていただく。議事（1）「令和3年度重点事業の評価及び取組事業の報告について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

資料1、資料2に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、説明のあった事業にご尽力いただいた委員からご意見をいただきたいと思う。まず、広瀬川1万人プロジェクトについて、深松委員に意見を伺いたい。

○深松委員

当年度春の活動はコロナの影響で中止となり、秋についても、申し込み自体は参加者数より多かったが、人数制限を行い開催したことから1,072名という参加者数となった。企業を含め、多くの方に参加いただけるイベントとしてだいぶ定着したなという印象がある。来年度も人数制限を行いつつ、ぜひ4月23日に春の一斉清掃を行いたい。

○小祝会長

4月の春の開催も含め、引き続きよろしくお願ひしたい。

続いて、アイラブ広瀬川プロジェクトの「広瀬川ガイドためのスキルアップ講座」の講師をしていただいた西大立目委員に意見を伺いたい。

○西大立目委員

片平市民センターの近くにお住まいの方がガイドを引き受けて、市政だよりで定期的に募集をかけながら継続されている「広瀬川界限（かいわい）ぶらり散歩」は、素晴らしい活動だと思っている。まち歩きガイドは大抵専門家が講師となり参加者に説明するが、本活動では市民の方々がガイドを務めている。私は、川のことは日常で見ている人が一番分かっていて、毎日毎日つぶさに川の変化を見ている、また川の魅力を十分に知っている方々が、いわゆる、おもてなしのような感覚で外から地域に来る人を受け入れて、魅力や小さな気づきをお話されていて、それが広瀬川のまた別の魅力をきちんと伝えていると思っている。

地域の住民がガイドとなると、洪水の記憶、災害の経験、また季節の変化も十分に分かっている、戦後の大洪水を記憶している方々がまだお住まいなので、そういう方とつながりどれだけ大きな被害を体験されているか、記憶のリレーのようなことをやり、それがコミュニティの再生とはいかないまでも、新たな人間関係を地域につくることになるのではないかと考えている。本当に、この片平市民センターの活動には期待していて、これからも頑張りたいと思う。

私も知らなかったが、ほぼ10年前に仙台市河川課が働きかけてこういった活動のベースを作っており、広瀬川の流域には他にも上流には宮城西市民センター、下流には八本松市民センターがあり、こういった活動が市民センターごとに育つといいと思う。

○小祝会長

こういった伝承の取り組みは続けていかなければならないと思うし、できれば各市民センターが連携し、そこに住む方にも広がっていくことを期待したい。

続いて、アイラブ広瀬川プロジェクトの「ヒロセガワプレーパーク」について豊嶋委員から意見を伺いたい。

○豊嶋委員

広瀬川周辺は子どもの遊び環境として非常にポテンシャルはあるが、子どもたちだけでは川には行ってはいけませんと学校から指導され、中々足を運んでもらう場所だったため、大人の目がある場所で子どもに遊んでもらおうということで、今回西公園プレーパークの会と開催をした。プレーパーク自体は、緑の基本計画でも市内で展開していこうという市の意向もあるため、広瀬川のポテンシャルをプレーパークで活かしていくことは、大橋周辺だけではなく、様々な場所でも計画していきたい。

当日は、まちづくりトークサウナも同時開催し、冬の広瀬川にサウナに入った後でつかるといふ貴重な体験を参加者にしていただいた。また、様々な立場の方々に集まっていただいて語り合い、ご意見をいただいた。偶々、東北大学の学生がフィールドワークで会場に立ち寄っていただき、やはり若いひとたちにチャレンジしてもらふこと、市の施策が上手く連動するように仕掛けていくことも大事だと感じた。川をアウトドアの場所としてだけではなく、若く感性の高い方々に日常的に使っていただけるような展開ができればと思う。

○小祝会長

資料1で事例として紹介された、東北工業大学と河川課との広瀬川を散策するという事業がありましたが、ここにも西大立目委員と豊嶋委員に参加いただいた。学生も、普段橋の上からしか見ない広瀬川を橋の下から見ることができたことと驚き、新たな発見があった。また、その際、豊嶋委員から百年前の写真を学生に見せていただいてとても勉強となり、学生の評価もとても良かった。本事業は今後も継続したいと思う。西大立目委員の話にあった、広瀬川界限（かいわい）ぶらり散歩のガイドの方々にも一緒に参加いただければとも思う。

他に何か意見はあるか。

無いようであれば、「令和3年度重点事業の評価及び取組事業の報告について」は、これで承認いただいたということにする。

引き続き、議事（2）「令和4年度重点事業の設定及び取組事業の更新について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

資料3、資料4に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、「令和4年度重点事業の設定及び取組事業の更新について」は、これで承認いただいたということにする。

引き続き、議事（3）「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

資料5に沿って説明。

○小祝会長

広瀬川ゴールドサポーターの認定に当たっては当協議会の意見聴取が必要となるが、ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

無いようであれば、「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」は、これで承認いただいたということにする。

また、今回ゴールドサポーターの認定を受けた団体の中に深松組があるため、深松委員に意見を伺いたい。

○深松委員

元々、本制度を作ったきっかけは、仙台市は大手企業の支社・支店が多く集まるまちであり、清掃活動に支社・支店にも参加いただくためのインセンティブがあった方がいいということにあった。当時はまだ、SDGsがそれほどいわれてはいなかったが、今ではどの企業でも持続可能な社会をつくるということがいわれており、広瀬川が未来永劫仙台市にとってきれいであり続けるお手伝いをしているということ、支社・支店から本社に対して取り組みをアピールできるよう、仙台市から評価していただく制度をつくってもらいたいと協議会で意見をまとめ、制度ができたこと記憶している。

例えば、みずほ銀行グループや三井住友銀行グループの澁橋での清掃活動への参加など、多くの大手企業の支社・支店にも参加いただいております。今後も周知参加してもらい、サポーター認定することで、多くの方々に広瀬川に携わっていただくきっかけになると考える。

今回、グリーンサポーターの認定後に要件が満たされたので3団体がゴールドサポーターに認定されたが、これをきっかけに様々な企業にチャレンジしていただければと思う。

○小祝会長

私も、確かにそのような経緯で制度ができたこと記憶している。さらに活動していき、持続可能な広瀬川、持続可能なサポーター制度にしていきたい。委員の皆様のご協力もお願いしたい。

他に何か意見はあるか。

無いようであれば、「広瀬川ゴールドサポーターの認定について」は、これで承認いただいたということにする。

引き続き、議事（４）「広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

資料6に沿って説明。

○小祝会長

参考資料1の広瀬川魅力創生サポーター認定制度のチラシは市役所で配布しているのか。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

チラシは市役所河川課で配布している。また、ホームページにも掲載している。

○小祝会長

承知した。

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

○多田委員

より多くの人に認定制度を知ってもらうために、清掃活動時にポスターなどを貼る、報道機関にも声掛けしてこういった制度があるということ、広報した方が良いと思う。

○小祝会長

今後の広報活動については検討いただきたいと思うが、事務局から意見はあるか。

○事務局（河川課 伊藤課長）

広報についてはこれまでも課題となっており、特にここ1～2年はコロナの関係で、一斉清掃も直前まで実施の有無がはっきりしなかったということもあり、従来と比べてもあまり積極的な広報ができなかったという反省が確かにある。一方で、いつまでもそうはいってられないため、来年度以降は事務局として工夫していきたいと考えている。

○小祝会長

来年度からは、新規事業として広瀬川インスタクラブも加わりインスタグラムの拡充も予定されているため、よろしくお願ひしたい。

他に何か意見はあるか。

○豊嶋委員

グリーンサポーターの認定団体の中で3団体は更新しなかったとのことだが、今後申請は行えそうなのか。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

グリーンサポーターの更新は当該年度と前年度の取組事業に延べ10名以上の従事が要件となるが、昨年度と当年度はコロナの影響で一斉清掃が秋のみの実施となったため、3団体については要件を満たさなかった。来年度は春と秋の開催を予定しており、10名以上という要件を満たしたら申請を行いたいと、3団体からは伺っている。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

○手島委員

全般的な話として、若い人たちの連携について、広瀬川沿いには北から宮城県宮城第一高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県工業高等学校、宮城県仙台南高等学校、宮城県仙台東高等学校などがあり、学校では体験型学習などでフィールドに出て地域課題や地域資源を見つける学習を行っていることから、高校生あるいは東北大学・東北学院大学などの大学生という広瀬川沿いの若者層とも徐々に連携を図り、また、インスタグラムでの広報を行う際は、若い目線で行うことが必要だと感じる。

○小祝会長

確かに高校などの体験型学習と連携できるかもしれない。その他、当年度は東北工業大学と河川課でも連携事業を行ったので、繰り返し関わっていければと思う。

事務局から何か意見はあるか。

○事務局（広瀬川創生室長 稲垣）

当年度は東北工業大学と連携する形で事業を実施したが、来年度は小田会長代理からも連携の話があったため、実施していきたいと考えている。

○小祝会長

それでは、小田会長代理からも意見を伺いたい。

○小田会長代理

私が非常勤で地理学を教えている東北学院大学で地域を学ぶ授業を行っているが、東北工業大学と河川課との連携事業の話を聞き、来年度の授業で早速そのような機会を作りたいと考えており、その際は西大立目委員をはじめご協力をお願いしたいと考えている。

また、手島委員から高校生との連携について話があったが、来年度から新学習指導要領が始まり、高等学校で「地理総合」が必修科目となる。その中に持続可能な地域づくりという項目があり、自然環境・人間・学校の相互の関りを学ぶという内容となっており、高等学校の地理担当の先生に連携を働きかける、良いタイミングだと考える。

○小祝会長

今回皆様から頂いた貴重なご意見を参考に、事業の検討をお願いしたい。

他に何か意見はあるか。

無ければ、「広瀬川グリーンサポーターの認定の報告について」は、これで承認いただいたということにする。

以上、議事についてはここまでとする。

4. その他

引き続き、次第4、その他(1)「第40回全国都市緑化仙台フェアについて」、事務局より説明をお願いしたい。

○事務局(広瀬川創生室長 稲垣)

資料7に沿って説明。

○小祝会長

ただいまの事務局からの説明について何か意見のある委員はいるか。

○多田委員

今後緑化フェアでは市民の方もかなり参加して、終了後も花壇などは継続して残るのか。

○全国都市緑化フェア推進室 千代谷室長

緑化フェアで公園敷地内に整備する花壇については、基本的に仮設の花壇であり、フェア終了後に大部分が撤去されるが、一部開催した記念としてレガシー的に残したいと考えている。また、フェア期間中の市民参画ということもあったが、花壇の管理、様々な会場でのイベント開催についても市民・団体の皆様のお力も借りながら、実施していきたい部分もある。今後、市民の皆様向けの広報・周知も令和4年度から本格的に開始していきたいと考えている。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

○豊嶋委員

緑化フェアで広瀬川沿いの整備が行われると、当年度開催したヒロセガワプレーパークなどのイベントもやり易くなると期待しているが、あくまでも緑化フェアだけの整備とは私はとらえず、大橋周辺の西公園市民プール跡の整備は緑化フェア以降も続き、青葉山公園もまだ整備途中であると思う。大橋を中心とした一体的な緑のつながりを将来的に杜の都に引き継いでいきたいというのがフェアのレガシーにかける思いであると思う。協議会の場かどうかは分からないが、将来に向けての議論を行う市民を交えた交流会のような場を設定し、学生も含め様々な方々が提案できるといいと思う。

○小祝会長

この件について、事務局からは何か意見はあるか。

○事務局（河川課 伊藤課長）

河川部分についてはフェア後の整備などまだ決まったものはないが、もちろん緑化フェアをきっかけに会場整備も行われるため、それらも活用しながら市民の活動も活発になっていく効果も期待している。フェアをきっかけに今後進めていく必要があると認識している。

○小祝会長

本協議会も緑化フェアに何らかの形で関わる可能性があるため、その際は委員にもご協力をお願いしたい。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

○西大立目委員

豊嶋委員の意見に同感する。このようなフェアを開催すると、楽しさや賑わい、人の集まりが協調されるが、広瀬川沿いで開催されるということをしちんと踏まえ、将来の市民参画や今後川沿いをどうしていくのかという意見を言い合える場を、フェアの中に組み込んでもらいたいと思う。

○小祝会長

事務局には委員からの意見も踏まえたうえで検討してもらいたい、何か意見はあるか。

○事務局（河川課 伊藤課長）

検討させていただく。

○小祝会長

他に何か意見はあるか。

無ければ、「第40回全国都市緑化仙台フェアについて」は、これで終了する。

5. 閉会

○小祝会長

これまでの委員からのご意見・ご質問等について、事務局でまとめていただき議事録にて確認することとする。

本日の議事はこれで終了とし、マイクを事務局にお返す。

○司会（河川課 伊藤課長）

議事の進行に感謝申し上げます。

今期、皆様に協議会の委員として委嘱している任期は、令和4年3月31日までとなっている。委員の皆様方におかれましては、この2年間、貴重なご意見・ご助言を賜り感謝申し上げます。

さて、本日までご出席いただいた西大立目委員と深松委員については、今期をもって委嘱期間がちょうど10年となり、ご退任されることとなる。お二人には、昨年度の広瀬川創生プラン中間見直しの検討をはじめ、市民団体の取組みの推進に関して、貴重なご意見・ご助言を賜り、事務局一同、あらためて感謝申し上げます。

それでは最後に、ご退任される西大立目委員と深松委員からご挨拶をいただきたい。まず、西大立目委員からお願いしたい。

○西大立目委員

色々と新しい良い動きが出てきて、また、本協議会にも若い委員の方々が入って来られて、色々な動きがさらに合成され、広瀬川に関わる市民を増やすために色々な入口が用意されているといいと思う。また、2年前から始まったこのパンデミックに見舞われて、あらためて百万都市の中にこれだけ豊かな自然があることの素晴らしさを痛感し、川沿いを歩くなど、川とつながる形を上手につくっていければと思っている。

広瀬川の清流を守る条例の前文に、「仙台の母なる川、広瀬川」という表現があり、この川が無ければ仙台はこのように大きな町になれなかったと思う。仙台の見るべき場所はこの広瀬川だけといつも思っているの、そういう意見を大切に育て、次の活動ができればと思う。

○司会（河川課 伊藤課長）

続いて、深松委員にご挨拶をいただきたい。

○深松委員

私が広瀬川に関わったのは、平成15年に当時協議会の委員であった工藤氏から国際センター裏の川岸にペットボトルのごみが2メートルぐらい山積みになっていて、回収して欲しいと言われたのがきっかけである。翌年、広瀬川1万人プロジェクトに参加したが、当時は百人も集まっておらず、最初に澱橋で清掃に参加したときは多くのごみを回収した。今はごみを探しながら拾うようになり、本当にきれいな川になり、継続は力なりを実感している。

広瀬川による河岸段丘上に仙台市があるということも、防災上とても重要で、仙台市は災害にとっても強い町であり、伊達政宗公が開府した素晴らしい町に我々はいると感じる。委員は退任するが、広瀬川と仙台市を愛する市民として今後ともよろしくお願いしたい。

○司会（河川課 伊藤課長）

最後に、小祝会長からご退任されるお二人にお言葉をいただきたい。

○小祝会長

西大立目委員と深松委員のお二人には、大変お世話になりました。協議会の議論が深まったのも、お二人のご尽力によるものと感じている。これを機にお二人は協議会という場を離れるが、同じ広瀬川を愛するものとして、ぜひこれからもご指導を賜りたい。

○司会（河川課 伊藤課長）

皆様、ありがとうございました。

それでは、10年間委員としてご尽力いただいたお二人に、委員の皆様よりあらためて大きな拍手をお願いしたい。

=一同拍手=

以上をもちまして、「第43回広瀬川創生プラン策定推進協議会」の一切を終了する。

以上

この議事録について、会議の内容に相違ないことを認めます。

令和 年 月 日

議事録署名人

広瀬川創生プラン策定推進協議会 会長 _____ (印)

委員 _____ (印)